の成長ぶりを目のあたりにみるたのしみでいっぱいのその日を、本当に楽しい有意義な一日にするために、私どもは多くの来会者を自然に遊びの中に誘導します。子どもたちの演じる遊びに朗らかな笑いはたえず、プログラムの進行につれて子どもたちの活動にあわせて、一同のハミングが流れ、歌声が聞え、器楽演奏をしてもらうように運びます。最初はなかなか開かなかった口も次第にほころび、不安そうに打っていた太鼓の音も次第に重量感が加わり、全員渾然一体の境地にさそいこまれるのであります。

⑧ 間のびがしない演出のために

……組織の緊密……

四〇〇人の子どもと保護者を一時間半、あくことなく楽しませるためには、各パートの演出責任者はいうに及ばず、全職員がそれぞれの場所に、叡知を働かせ、行動的であり、常に全体的配慮がなされていることが大切であります。すなわち先生の和こそすばらしい演出効果をあげるかなめになるものと考えています。

⑨ 常に前進するものでありたい

……けんきょな反省の態度を……

ときは休みなく流れ、社会とともに伸びる子どもたち。

私たちの保育の中にも日々あらたなるものがあると思います。

私たちは常にかわらないものに立脚して、日々前進するために、たゆまぬ努力をすることこそ、課せられた任務でないかと思っています。

遊戯会のあと、私たち同志の反省会をもっていろいろ話し合うと同時に、父兄からは遊戯会についての感想をきいて反省の資料としけんきょな態度で来るべき日に備え参考としております。

創るよろこび

静岡精華幼稚園
手塚せつ子

私の園の研究・組の研究

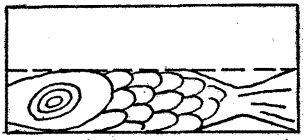
精いっぱい活動できるようにと願いつつ保育計画をたて新しい気分で子どもたちを迎える、昭和三十年精華学園の一隅に開園したこの幼稚園の附近は静かな住宅地、表通りに出れば一通り商店が軒を並べ、自動車、電車の便もよい。家庭状況は商業、会社員、公務員、教員で生活は中流というところ、私の受け持った組は男児が二十二名、女児十六名の二年保育年少組。四月十六日はじめて色紙を与えごく簡単な折り紙をこころみたところ、表の

ような状態であった。そこでどんな材料を与え、どう指導したら全体の子どもたちが喜んで作りいきいき遊べるようになるかといろいろ苦労したので、二年間子どもとともに過した経験をかえりみ、記録の中から製作面での喜びを一つ二つ拾ってみる。

一年間の現われ　色紙、画用紙を分けるとできないと泣く子のあるのは、色紙、画用紙の感覚が幼児に緊張を与えるのであろうか、幼稚園へいったらしっかり教わってくるんですよ、上手に絵をかくのですよ、という家庭の人々の声とともにより以上重荷になってしまうのであろうと思ったので、つとめて子どもと話す機会を持ち、飛行機や犬を折って遊んだり、絵の具を用意し、すきに新聞紙、色紙、包装紙へかいたり、切りぬいたり、貼ったりして遊べるように努力する。節分のお面作りでは鼻を切り抜いたり、上へ折りまげたり思い思いのたいへんおもしろいものが見られるようになった。粘土は、何といっても幼児の製作活動には最適な材料で紙製作のときの緊張はみられず、ぺたぺた手のひらで叩きながら室内に子どもの笑顔が見られるようになってきた。初めの二回は新しい保育室を気づかい、場所を出たり床をよごさぬよう気をつけたためか細長くのばした蛇、小さなお団子、りんごなどで作品としてはたどたどしいものであった。子どもたちの今までとは異った明るい表情に力を得て、製作の材料をあれこれ工夫したり、環境をかえる（テラスや園庭の日蔭に机を持ち出すなど）などよく子どもたちに理解できるようにと努めてみる。こうして子どもたちの製作に対しての興味は出てきたというものの、まだまだ思いきり活動するところまではいかぬままに一年はすぎた。

	男	女
全然やる気がない子	4	2
うながされてやった子	3	4
くちゃくちゃにしてしまった子	4	0
泣いてやらない子	1	3

二年目の現われと指導　新学期を迎えた子どもたちは目立って話し合いが活発になってきた。製作の計画の中にこの話し合いを十分取り入れていきたいと思った。隣りの鯉のぼりが間近に見られるようになると、四、五人の男の子がそばへいっては、紙かな、布かなと議論している。そのうち僕の家でもかざった、お爺ちゃんが鯉のぼりをあげた、という話も生まれ、子どもたちと近くの公園へ鯉のぼりを見学にいく。屋根より高い鯉のぼり、と歌いながら歩き、みなの関心は自然鯉のぼりへとむけられる。公園の石に腰掛け、生活発表を中心に製作の面へと誘導する。公園から一通りの計画を持って私たちの製作の場である、学園体育館へ引きあげる。仕事の分担、順序が定められ、男児はおとうさん鯉、女児はおかあさん鯉を作ることになり、早速藁半紙にクレヨンでうろこを書くことになった。



大きなものに対しての期待はどんなに子どもたちの心を楽しませたことでしょう。第一

日目は話し合いを重点においてという私の気持はかなえられて二日目を迎えた子どもたちは朝登園する日の材料を取り出し一生懸命うろこを書く。ひろびろとした体育館へエスロール紙十二枚貼り合せ、絵の具は赤、青、黒吹流しの色を用意する。うろこを切りぬき図のように貼っていく。大きな眼もかかれる。ボディーを絵の具で塗る。入園当初「絵をかくから幼稚園はいやだ」と困らせたM君も、「先生僕がこれやる。子どもの鯉も作っていい」という元気な言葉もきかれる。製作に興味のなかった子どもたちが喜んでこの製作の場に参加し、足の裏を真赤にして活躍したことは何といっても一番嬉しかった。でき上るとみんなでかついで日向へ干す。一隅に用意しておいたバケツと雑巾、製作の終った子どもたちは、話し合いでお片づけが始まる。お雑巾を持って、こまねずみのように床をはいまわる姿もかわいい。私はバケツの水をかえたりよごれたお雑巾をゆすぐのに大忙がし。子どもたちの汚い足をふきながら子どもとともにの幸いを感じた。製作三日目はいよいよ完成の日。絵の具はすっかりかわき、切り抜き、背びれ腹びれを貼ってでき上る。鯉の口は子どもたち苦心惨憺、ああでもない、こうでもないと工夫する。口は何枚も貼って厚くし、自由画帖に用いている管をつけることにし、園庭の竿に取りつける。自分たちの手で作った鯉のぼりが五月晴れの空に泳いだとき歓声をあげ協力の喜びを味わった。

例　ごっこ遊び　お部屋でマッチ箱、空箱色紙、画用紙、ボール紙などを利用して、テレビ手さげなど考案して作っている姿がみられるようになった頃、ごっこあそびを扱ってみる。売り屋さんごっこ、材料は画用紙、色紙、ボール紙、包装紙、クレオン、絵の具、空かん、びんの口金、毛糸、ビニール、小布などで身近なところからたくさん材料を集め自由製作を主として扱う（その中へ折り紙製作を取り入れることにしはたして子どもたちはどちらを喜び、どちらに興味があるだろうかということも知りたかったため）話し合いで定ったお店は靴屋、菓子店、玩具屋、魚屋、ピストル屋、時計屋、洋服屋で、服屋で折り紙のレインコートや着物を扱う。売買の状態は修学旅行そのもの、自由製作のお人形、首のまがった大人の目から見ればみっともないような製作品はどんどん売れ、きっちり折られた、紙のレインコートや着物は最後までそのまま残ってしまうありさま。やはり子どもには子どものみの世界のあることを痛切に感じた。製作に自信のない子の作品でも子どもたちの間で価値あるものとして認められクラス全体の製作意欲がこれを機会に上昇した。

例　つぎはもう少し内容の豊富な動きのあるものとして水族館ごっこを計画する　子どもたちの創造性を伸ばし、製作品をあそびに発展させたいと思った。材料は、クレオン、クレパス、絵の具、新聞紙、画用紙、パッキング、凧糸、細竹、針金、紙紐などを用意する。最初作った魚は平面的なものでこれでは

のびつつある子どもたちにとって決して満足ではなかった。先生ベラベラだね。お魚のお腹はふくらんでるね。と不満な声がもたらされて、お友だち同志工夫するようになり、平面的なものから立体的なものへと構成され、お腹へパッキングや新聞紙の裁ちくずがつめられた。私はこのような雰囲気の中で一人ひとりの子どものよき聞き手になろうと努力した。楽しんで物を作りつつある活動過程にこそ尊さがあり、創意工夫の芽が育てられるのではないだろうか。自分たちの力で作られた魚は子どもたちに非常にかわいがられた。早速おママゴトの食膳に持ち出される。鯨とり水泳ごっこなどのあそびが行われて、この立体的なお魚は子どもたちのよき友となって広い海へのイメージが展開し、お遊戯室いっぱい活動の場として利用された。グループ構成も、今までの小人数が大人数になり、創造的なあそびになって室の隅の空箱、古机、古椅子が子どもたちの社会へ引っ張り出されるようになってきた。製作したたこを、うちわであおいで、たこ競走したり、お魚つり競走等もおもしろいあそびの一つとなって時間のたつのも忘れる位であった。破れたお魚は文の子の手によっ紙が貼られ、お魚さん痛かったでしょうという言葉もかわされ、製作品を大切に扱うようになり、この優しい気持がいつまでも持ちつづけられることを願った。その中にたこが人形劇の舞台に出され、子どもたちが自然に口ずさむ童謡に合わせてのたこおどりはみんなでやったり見たりして楽しむことができた。言語も社会性も製作を通して発達して来た。あそびに生かされたお魚を水族館ごっことしてまとめてみる。お遊戯室の陳列棚を利用して、絵の具でボール紙に岩をかく、海藻をかく、お魚の背中へ糸をつける、自然物、石、小石、貝がら、積木などと組み合せて作成、最後に仕事を分担し子どもたちがそれぞれ責任を持って年少組を招き、園全体で楽しむことができた。

例　積木　クリスマスに贈られた大きな構積成木で、組みたて方で汽車や自動車ができ子どもたち四、五人のせてごろごろ走るこの積木は子どもにとってどんなに魅力的だったでしょう。新学期になるのを待って早速汽車や自動車を組み立てよく遊んだが、大人の考察したこの積木は私どもが思ったほど長つづきせず、むしろ遊戯室のすみに片づけてある木箱、板切れ、大小の古椅子や古机の方が毎日繰り返し繰り返し利用され、つぎつぎにかわったおもしろいお家、シーソー、お祭りの屋台、自動車が考え出され、大勢の子どもたちが喜んで参加している。精巧な玩具よりこのような素材や自然物の方が子どもたちに親しまれ、子どもたちの気持を創造的へと導いてくれている。

＊　＊　＊